

社会経済活力創出対策特別委員会記録

1 会議の日時	令和 6年 5月10日	開 会 午前 9時 58分 閉 会 午前 11時 02分
2 会議の場所	第4委員会室	
3 出席者	委 員	委員長 岩井 豊太郎 副委員長 野島 征夫 伊藤 正博 渡辺 嘉山 平岩 正光 田中 勝士 国枝 慎太郎 酒向 薫 布俣 正也 今井 政嘉 平野 祐也
	執 行 部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	係長 遠藤 俊輔 主査 脇若 知香子	

5 会議に付した案件		
件	名	審査の結果
1	令和6年度重点調査項目等について	原案了承
2	令和6年度所管事務事業の説明聴取について	
3	令和6年度委員会活動について	正副委員長一任
4	その他	

## 6 議事録（要点筆記）

### ○岩井豊太郎委員長

ただいまから、社会経済活力創出対策特別委員会を開会する。

最初に、当委員会の運営についてであるが、委員会が所管する特定分野の中から、テーマを絞り込んだ上で、正副委員長の主導のもと、調査検討し、2年を目途に委員会として一定の提言を行うことを目指すものであり、委員には積極的な審議をお願いします。

まず初めに、当委員会の「令和6年度重点調査項目について」であるが、5月8日に開催された正副委員長会議において、配付資料のとおり、「社会経済活力創出対策の推進に関すること」と決定されたので承知されたい。

また、本年度の具体的な調査項目については、配付資料のとおり、「コロナ禍・物価高騰等からの経済回復・再生」「社会経済構造の転換」及び「『清流の国ぎふ』文化芸術の創造・伝承と国際交流の展開」について、参考人招致や先進地視察を積極的に行い、調査していきたいと思うがどうか。

（「異議なし」の発言あり）

### ○岩井豊太郎委員長

意見もないようなので、案のとおり調査していくことに決定した。

それでは、重点調査項目を踏まえ、調査項目に係る所管事務事業について、執行部より説明願う。また、執行部の紹介も併せてお願いします。

（兼松商工労働部長 執行部挨拶・紹介）

（田口商工労働部次長 執行部説明）

### ○岩井豊太郎委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

### ○布俣正也委員

4月にリニューアルオープンした「THE GIFTS SHOP」について、オープンから1か月の成果と評価を教えてください。

### ○吉田県産品流通支援課長

今年のゴールデンウィークは昨年よりも多くの方に来店いただいた。利用客からは、展示スペースを拡充したことにより、「手に取って県産品の魅力を感じることができるようになった」「これまで以上に県産品のことがよく分かるようになった」との声をいただいている。

### ○布俣正也委員

具体的に好評となった理由は、特に力を入れた部分はあるか。

### ○吉田県産品流通支援課長

5つの圏域ごとに県産品を展示しているため、地域ごとの特産品が分かりやすくなったこと、また、THE GIFTS SHOPでしか手に入れることができない商品を多く紹介しており、知らなかった商品を知っていただく機会が増えていることがその理由と受けとめている。

### ○布俣正也委員

今後のイベントの予定や戦略は。

### ○吉田県産品流通支援課長

3か月に1度の展示内容のリニューアルや、ワークショップを実施していく。

### ○酒向薫委員

物価高騰の中で、特に中小企業は苦しい状況にある中で、5月まで県が実施する電力・ガス価格高騰の負担軽減支援について、6月以降も必要と考えるがいかかがか。

### ○横田商工・エネルギー政策課エネルギー対策監兼亜炭鉱廃坑対策室長

国が実施している電気・ガス激変緩和対策事業の対象とならないLPガスや特別高圧電力について、国の交付金を活用して県が支援しているが、国の事業が5月までとなっていることから、今後の国の動向を注視していきたい。

○酒向薫委員

中小企業の経営が厳しい状況にある中、これまで以上の支援が必要と考えているが、6月以降、中小企業への支援を実施しないのはいかがなものか。

○横田商工・エネルギー政策課エネルギー対策監兼亜炭鉱廃坑対策室長

国は都市ガスや高圧電力・低圧電力の契約者への支援をしており、県は国の支援対象とならないLPガスや特別高圧電力の契約者を支援しているが、本来は国が統一的に支援すべきと考えており、今後の国の動向を注視していきたい。

○酒向薫委員

中小企業は依然として厳しい状況にあり、県としてもしっかりと対応いただくことを要望する。

太陽光発電設備等の導入拡大について、現在FIT（固定価格買取制度）の売電価格が著しく下がっている中、企業の採算が取れなくなっている。そうすると、発電設備等を廃棄する際の費用の捻出が困難になってくる恐れがあるが、その点を踏まえて取組を推進しているのか。

○塚腰脱炭素社会推進課長

脱炭素に係る県の取組として、売電目的の太陽光発電設備等の設置よりも、主に自家消費を目的とした設置を推進しており、補助事業もそのような趣旨で実施しているところである。その上で、廃棄を見据えた費用の積立て、被災による撤去を見据えた保険の加入については、推奨してきているところである。

○酒向薫委員

自家消費にしても、廃棄の際の費用の問題については、説明をしっかりといただいた上で事業を進めていただくことを要望する。

○平野祐也委員

GKI（岐阜県人会インターナショナル）と連携した県産品の販路開拓について、数年経過したが、具体的な実績を教えてください。

○吉村県産品流通支援課販路開拓推進監

GKIと連携したグローバル・アンテナ・ショップの開拓実績はまだないが、現在、GKIから紹介を受けた、ブラジル・サンパウロのセレクトショップや、アメリカ・ワシントンD. C. の店舗と話を進めているところ。

○平野祐也委員

GKIは販路拡大に特化した組織ではないため、本当にGKIを利用して販路開拓するのがよいか疑問。あまり実績が聞こえてこないこともあり、1つのツールとしてはあり得るが、寄りかかりすぎるのもどうかと思うため、手法を再考いただくことを要望する。

国際交流に関する県民の認知度向上に向け、特に子どもの国際交流が必要と考えるが、教育関係の取り組みについてはどのような現状か。

○酒井国際交流課長

教育関係では、ベトナムのフエ省と岐山高校、ゲアン省と関高校が交流を行った実績がある。これまで国際交流では、文化や経済交流に重点をおいて進めてきたが、今後は教育面での交流機会を設けていきたいと考えている。

○国枝慎太郎委員

コロナ禍からの経済回復に向けて、県内事業者数は、かつて9万社程度であったと思うが、現在どのような状況か。スタートアップ等の取組の一方で、廃業や後継者不在で事業承継ができない黒字倒産

が増加しているのではないか。

○渡部商工・エネルギー政策課長

令和3年の経済センサスによれば、県内事業者数は減少傾向にある状況。事業承継については、中部経済産業局の委託により、岐阜商工会議所内の岐阜県事業承継・引継ぎ支援センターが中心となり、県、市町村及び経済団体のネットワークの下で支援を行っている。

令和5年度は商工会議所等から280件の相談をセンターに取り次ぎ、88件の成約（事業承継）に至っている。内訳として、後継者不足等を背景に、第三者による承継が増加傾向にある。

○国枝慎太郎委員

酒米は高値で販売できる反面、リスクもあり、農家から主食用米から酒米への転換に踏み出せないとの声がある。現在、酒米の市場はどのような状況なのか。また、県として、酒米に転換するよう誘導していくのか。

○宮田農産園芸課長

県内には、「ひだほまれ」という酒米品種があり、飛騨地域の酒蔵を中心に使われている。一方、ひだほまれば標高の低い地域での栽培には適しておらず、美濃地域の酒蔵から美濃地域に適した品種開発の要望があり、県中山間農業研究所で新品種を開発し、現在種苗登録申請中である。本年度、東濃地域の10の酒蔵でこの品種で酒を造り、本格的に販売をスタートする。ニーズがあれば揖斐などの地域でも栽培可能である。

○国枝慎太郎委員

大野町に日本一小さい酒蔵があるが、酒米の調達は厳しいとの声がある。農家が作ればそれなりの価格で買ってくれるだろうから、農家の所得増につながる。酒米を作る農家への転換などへの支援を要望する。

○平岩正光委員

森林サービス産業の状況や今後の取組は。

○山岸森林活用推進課長

令和5年1月にぎふ森のある暮らし推進協議会を設立し、森林サービス産業に取り組む会員同士の交流等を行っているところである。また、今年度は「ぎふ森の体験博覧会（仮称）」を開催し、県内各地の取組を県内外へ広く一体的にPRしていく。さらに、森林サービス産業に新たにに取り組む事業者への支援等により、事業者の発掘・育成も行っていく。

○平岩正光委員

「清流の国 文化探訪 南飛騨Art Discovery」について、地域経済の活性化や観光にどのようにつなげていくのか。また、期間や開催エリアについて、現在の計画を教えてください。

○大川文化創造課長

本年10月19日から11月24日の37日間、下呂市萩原地区で開催を予定している。地域の様々な産物や歴史、逸話等を取り入れたアート作品の制作に向け、各作家が準備しているところ。下呂市の観光産業と連携し、下呂観光に訪れた方にイベントに来ていただく。また、イベントに来ていただいた方に下呂に泊まって楽しんでいただくための準備を進めている。

○布俣正也委員

オーバーツーリズムについて、ゴールデンウィーク中の白川村、高山市の状況と、観光地の受入れ環境整備に向けた対策について教えていただきたい。

○横山観光国際政策課サステイナブル・ツーリズム推進室長

ゴールデンウィーク中の状況については現時点では把握できていないが、オーバーツーリズムについては、地域ごとに状況が異なるため、県としてはサステイナブル・ツーリズム推進事業費補助金を通じて、市町村に応じた取組を支援していく。また、特定の地域以外にもう一泊してもらうことで観光客の

集中を緩和していきたい。

○布俣正也委員

地域の観光協会などの状況を早急に把握し、県が主導権を取って様々な提案をしていただくことを要望する。

○伊藤正博委員

県内の航空関連企業では、コロナ禍で減少した受注が回復してきている一方、新たな人材を確保することが困難であると聞いている。県として航空関連企業における人材確保等の課題やニーズの聞き取り調査は行っているのか。行っている場合はどのような課題があるか。

○山田航空宇宙産業課航空宇宙・ドローン産業連携監

県では、川崎岐阜協同組合へのヒアリングや、公益財団法人岐阜県産業経済振興センターの航空コーディネーターが行う企業訪問に同席し、情報収集に努めている。その中で、特にコロナ禍の影響により、航空産業のイメージが悪化したことが人材確保の大きな課題と認識している。そのため、県では引き続き、航空産業のイメージ回復を図るため、高校生を対象とした企業見学会を実施するなど、企業の人材確保に向けた支援に取り組んでいく。

○伊藤正博委員

県にいろいろ相談したが、補助や助成を受けられなかった企業があると聞いている。なぜ受けられないのか、理由をしっかりと企業に説明いただきたい。

○岩井豊太郎委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって所管事務事業の説明聴取を終わる。

次に、「令和6年度委員会活動について」であるが、特別委員会の視察については、配付した「委員会視察要領」「委員会視察に関する申し合わせ事項」のとおりである。

視察先等については、必要性を十分に勘案し、委員をはじめ、関係者と調整の上、決定していきたいと思う。詳細については、正副委員長に一任願いたい、これに異議はないか。

(「異議なし」の発言あり)

○岩井豊太郎委員長

異議がないので、正副委員長に一任と決定した。

以上で、本日の議題は終了したが、この際、何か意見等はないか。

○兼松商工労働部長

本日は、様々なご意見、ご要望をいただき感謝申し上げます。

商工労働部に関しては、来年度の予算を、7、8月から検討していきたいと考えており、できるだけ多くの関係者の声を集めながら政策を進めていきたいと考えているので、委員の皆様からのご要望やご提案をいただきたい。

最後に、4月にリニューアルオープンしたTHE GIFTS SHOPについて、まだ来られてない方はぜひお越しいただきたい。また、地域に埋もれた県産品等があれば、情報をいただければと思う。

○岩井豊太郎委員長

これをもって、本日の委員会を閉会する。

社会経済活力創出対策特別委員会 配席図

令和6年5月10日

第4委員会室

